

基本施策評価シート

基本施策最終評価
A

基本施策通し番号 14
 基本施策 中部縦貫自動車道の整備促進
 構成施策

施策番号	施策名	施策最終評価
施策1	中部縦貫自動車道の整備促進	A
施策2	「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」の核となる施設の整備	A

成果指標

指標	内容	令和2年度目標	令和元年度末実績	単位	令和元年度の成果の検証
中部縦貫自動車道大野油坂道路の全線開通	全区間の1日も早い供用開始	大野～油坂間の一部供用開始	大野～大野東間の用地取得(100%)、下山トンネルの貫通、九頭竜川橋上部が接合、真名川橋の橋台・橋脚工事に着手	-	<ul style="list-style-type: none"> ・当初予算は210億円と昨年度に比べ47億円の増額となり、県内区間の予算では過去最高となったうえ、1月には93億円が追加補正され、総額303億円となった。 ・用地取得については、大野油坂道路における全ての用地取得が完了した。さらに、トンネル10本のうち7本のトンネル掘削が進み、うち下山トンネルが貫通、また九頭竜川橋の上部が接合したほか、真名川橋の橋台・橋脚工事に着手するなど事業が着実に進展した。
「越前おおのまるごと道の駅ビジョン」における核となる施設の整備	重点道の駅「(仮称)結の故郷」の整備	供用開始	名称決定、土木・建築工事の施工	-	<ul style="list-style-type: none"> ・施設敷地の造成工事を終え、建物の基礎工事に着手した。 ・全国からの公募により施設名称を決定するとともに、広報やイベント時において道の駅の整備に関する情報を発信するなど、開駅に向けたPRにより市民等の期待感を高めた。

後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・大野市にとって中部縦貫自動車道は、広域交通の円滑化や文化・観光を生かした地域振興や産業経済の発展、地震など災害時の緊急輸送・救急医療活動の支援、冬季における安全で安心な交通の確保のために真に必要な道路である。 ・越前おおのまるごと道の駅ビジョンの核となる道の駅「(仮称)結の故郷」は、越前おおのの魅力を発信や、大規模災害時に後方支援を行う機能を備えた施設として、平成26年度に国の「重点道の駅」に選定された。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・永平寺大野道路の1日も早い全線開通を目指すとともに、大野油坂道路の早期完成に向けた取り組みを進め、中部縦貫自動車道を全線開通させる必要がある。 ・中部縦貫自動車道の県内全線開通を見据え、重点道の駅「(仮称)結の故郷」が地域活性化の拠点となるよう施設整備やシステムづくりを進めていく必要がある。

社会情勢・市民ニーズの変化

市民が待ちわびた永平寺大野道路が平成29年7月に全線開通となった。残る大野油坂道路が全線開通することで、高速交通ネットワークが形成され、北陸圏と中京圏、関東圏との交流や企業誘致による雇用の創出等地域経済の活性化を期待している。

現在の「現状」と「課題」

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・中部縦貫自動車道永平寺大野道路が平成29年7月に全線開通した。残る大野油坂道路の整備促進を図っている。 ・指定管理予定者やモンベル等と協議しながら、施設の機能充実を図るとともに管理しやすい施設となるよう整備工事を進めている。 ・直売所で販売する農林産物等を安定的に供給し、また魅力ある商品ラインナップの充実を図るため、産直の会及び県、JA、商工会議所等の支援組織との連携による研修会等の開催により、産直の会会員の知識及び技術の向上等を図っている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中部縦貫自動車道大野油坂道路の1日も早い全線開通のため、今後も継続した国の予算確保が課題である。 ・開駅に向け、産直の会会員の具体的な商品づくり・商品開発への取り組みを後押しするため、より充実した支援策が必要である。 ・広域災害時の受援・応援拠点施設として機能を充実させるため、県と協議を進め、防災関係の計画への反映や協定の締結が必要となる。

基本施策の「成果」

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度当初予算では210億円の予算が計上され、昨年度と比較し47億円の増額となり、県内区間の予算では過去最高となったうえ、1月には93億円が追加補正され、総額303億円となった。 ・中部縦貫自動車道大野油坂道路は国・県と協働して用地取得等に取組んだ結果、大野油坂道路における全ての用地取得が完了した。さらに、トンネル10本のうち7本のトンネル掘削が進み、うち下山トンネルが貫通、また九頭竜川橋の上部が接合したほか、真名川橋の橋台・橋脚工事に着手するなど事業が着実に進展している。 ・国土交通省や県と調整し、施設整備工事に着手し、土地の造成工事を終え、建物基礎工事まで進めた。 ・施設前の国道158号のラウンドアバウト整備について、国、県が施設オープンに合わせて整備することとなった。
----	---

改善点

- ・中部縦貫自動車道の整備促進については、大野油坂道路の1日も早い全線開通に向けて、安定的に必要な財源を確保するよう国に対して強く働きかける。
- ・産直の会会員の知識及び技術の向上等への支援を継続するとともに、商品づくり・商品開発を促進するため、新たな支援策を設ける。
- ・施設オープンに備え、広域災害時の拠点施設として機能するよう、県との協議を進める。